

夢洲における物流交通対策

令和6年6月19日
大阪港湾局

夢洲における物流交通の課題と対応、具体策

課題

会場周辺（夢洲内）

ターミナルに來訪する
コンテナ車両の道路上待機による
一般車両や万博関連車両
（工事車両含む）の通行の妨げ

夢洲外から会場

万博関連車両（工事車両含む）の
交通需要追加に伴う
道路容量不足の可能性

対応

道路上待機車両の解消

道路容量の拡大

夢洲発生集中
交通量の削減

具体策

① 車両待機場場の追加整備

② 荷捌き地の拡張（ゲート増設）

③ CONPASの導入

④ ターミナルゲート時間延長

・此花大橋、夢舞大橋、
幹線道路の拡幅
・夢洲北高架橋などの
主要交差点の立体交
差化

⑤ 咲洲シフト

現状のコンテナ取扱貨物量を考慮した万博時のコンテナ車台数の推計値

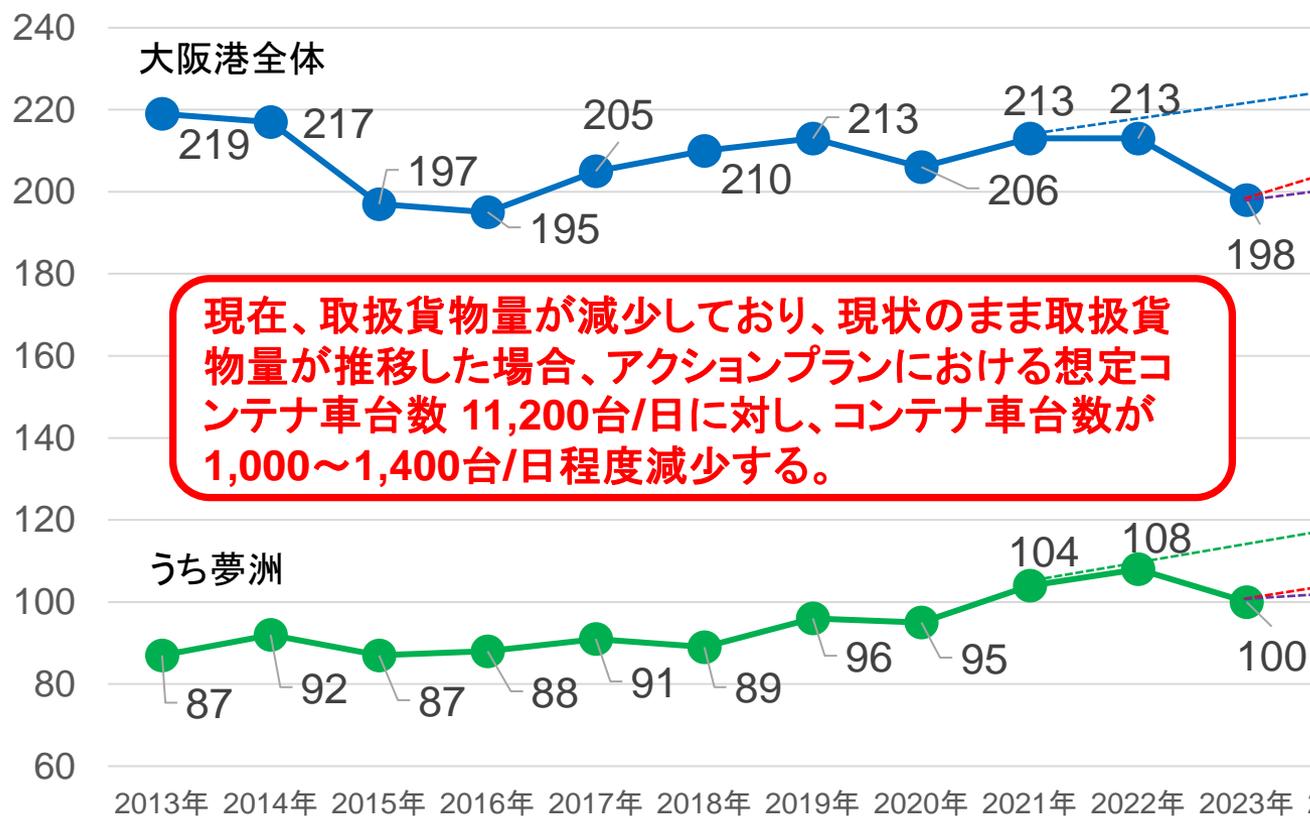
■2023年実績を考慮した万博時の取扱貨物量およびコンテナ車台数の推計値

内 訳	2023年時点 万博来場者輸送具体方針設定値	2024年時点 ①213万TEUに回復と想定	2024年時点 ②年平均伸び率より算出
大阪港取扱貨物量(2025年)	228万TEU/年	213万TEU/年 (▲15万TEU/年)	204万TEU/年 (▲24万TEU/年)
夢洲流出入コンテナ車台数 (2025年)(年間最大週の日平均)	11,200台/日	10,200台/日 (▲1,000台/日)	9,800台/日 (▲1,400台/日)

(2024年1~4月の取扱貨物量の状況は、昨年同期比98%)

(単位:万TEU)

大阪港の外貿コンテナ取扱個数



現在、取扱貨物量が減少しており、現状のまま取扱貨物量が推移した場合、アクションプランにおける想定コンテナ車台数 11,200台/日に対し、コンテナ車台数が1,000~1,400台/日程度減少する。

具体方針設定値 228万TEU

※2016~2021年の年平均伸び率を乗じて算出 (3.8万TEU/年の増加)

推計値① 213万TEU

※2022年実績まで回復 (7.5万TEU/年の増加)

推計値② 204万TEU

※2016~2022年の年平均伸び率を乗じて算出 (3万TEU/年の増加)

具体方針設定値 121万TEU

※2016~2021年の年平均伸び率を乗じて算出 (4.3万TEU/年の増加)

推計値① 108万TEU

※2022年実績まで回復 (4万TEU/年の増加)

推計値② 103万TEU

※2016~2022年の年平均伸び率を乗じて算出 (1.5万TEU/年の増加)

① 車両待機場場の整備

- ・夢洲において、令和3年度に約240台分を追加整備したことにより、幹線道路上のコンテナ車両の滞留列は一定解消したが、万博工事期間中及び開催期間中に不測の事態が生じた場合にも対応できるよう、コンテナ車両の待機場所を追加で約230台分確保する。
- ・台風によるゲートクローズ明けなど特異日には最大で約160台の滞留が幹線道路上に発生しているが、230台分の車両待機場所を追加整備することにより、待機場所内に収まる見通し。

■ 車両待機場場 670台分 (既設200台分 + 追加整備470台分)

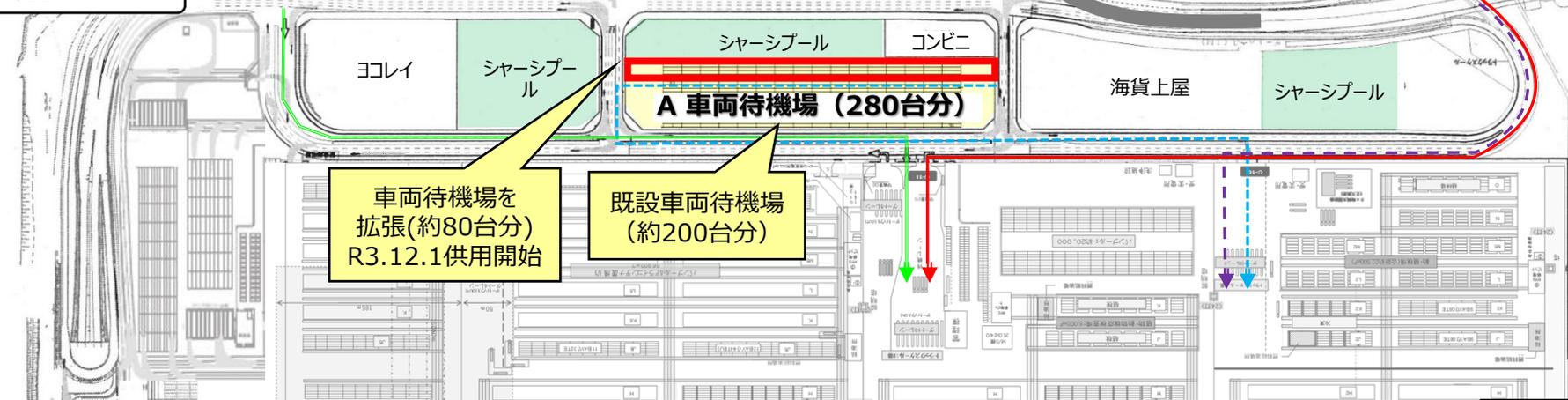
- ・既設(対策前) A : 200台分
- ・R3年度完成 A : 80台分、B : 160台分
- ・R5年度完成 C : 80台分 (R5.10.16供用)
- ・R6年度完成 C : 20台分 (R6. 3.19供用)
- ※R6.4供用予定より前倒し
- ・R6年度完成 C : 130台分 (R6.12供用予定)

230台分

※Cは万博工事期間中及び開催期間中のみの暫定施設

- DICT
- 実入コンテナ搬入・空コンテナ引取
 - 空コンテナ返却
 - 実入コンテナ搬入

C11 →



車両待機場場を
拡張(約80台分)
R3.12.1供用開始

既設車両待機場場
(約200台分)

新設

C 車両待機場場所
(230台分)

車両待機場場を
新設(約160台分)
R4.1.31供用開始

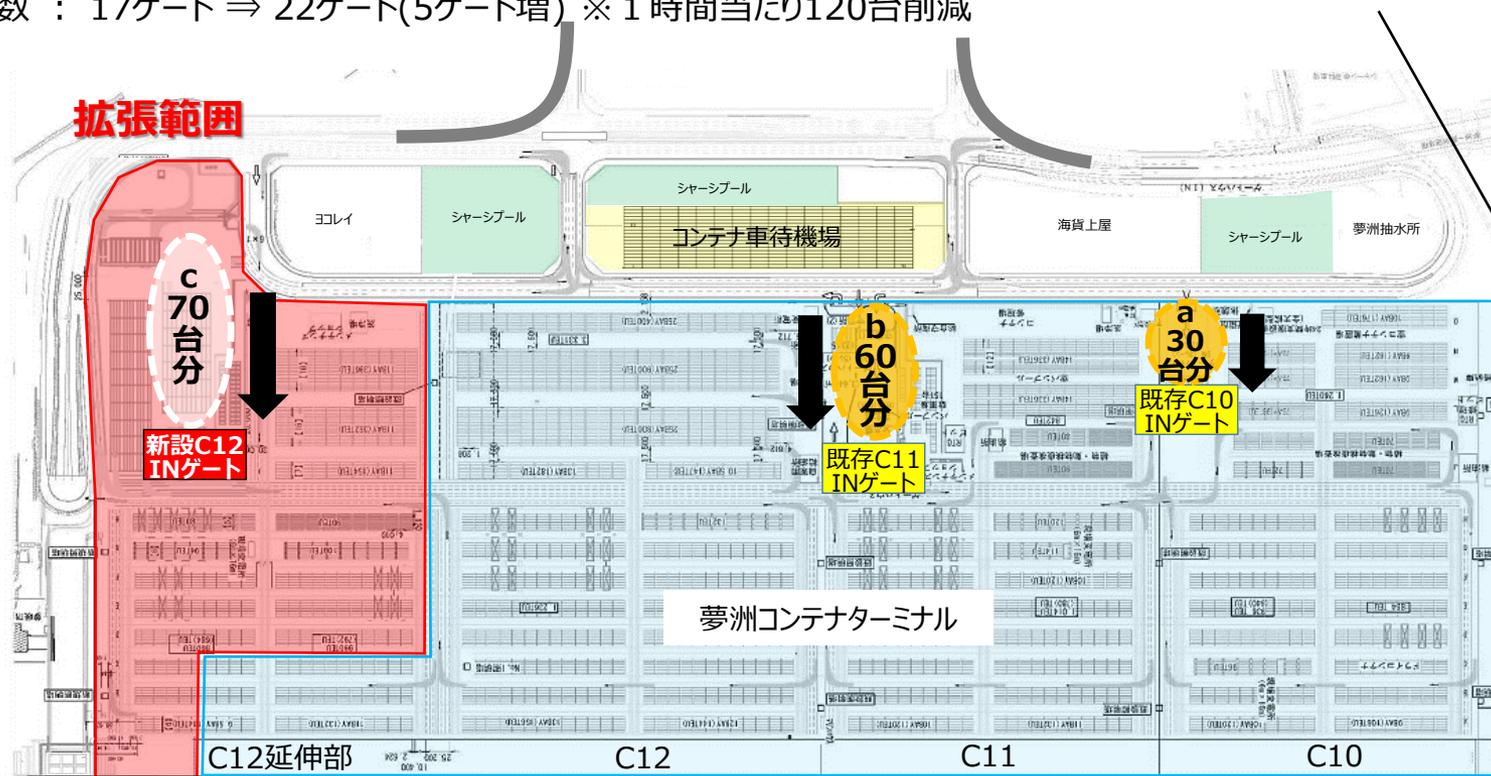
B 車両待機場場
(160台分)

② 夢洲コンテナターミナルの荷捌き地の拡張（ゲート増設）

- 国土交通省、阪神国際港湾(株)が事業実施。(工事完成)
 - ➡荷捌き地の拡張(増設ゲート含む)は、ターミナル事業者においてシステム導入等を行い、令和6年度中に運用開始予定。
※引き続き、ターミナル事業者へ早期整備について要請
- 増設ゲート前にコンテナ車両の待機レーン（70台分）を広く確保するとともに、コンテナ取扱能力やゲート処理能力の向上により道路上の滞留解消に寄与。
- 運用開始時には、荷捌き地の拡張範囲及び追加整備した車両待機場を最大限に活用し、夢洲コンテナ車両のターミナルへの車両動線を変更することにより、交通の円滑化を図る。

※INゲート前待機レーン：90台分 ⇒ 160台分(70台分増)（当初、aは撤去予定であったが、残置に変更（a残置+c整備=100台分））

※INゲート数：17ゲート ⇒ 22ゲート(5ゲート増) ※1時間当たり120台削減



③新・港湾情報システム「COMPAS」の導入

・コンテナターミナルのゲート前混雑の解消等を図るため、国が開発した「COMPAS」の大阪港への導入に向けて、国土交通省や阪神国際港湾(株)と連携して取組み、**令和6年3月29日に運用開始。**

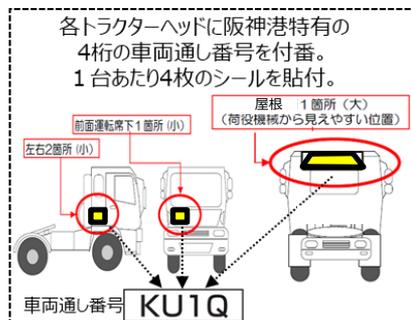
・主な効果として、PSカード※1や専用携帯端末※2等を利用した、ゲート処理時間の短縮やターミナル荷役作業の効率化による荷受け待ち時間の減少が見込まれる。

※1 国土交通省が発行する身分証明書（ポータルカード）

※2 大阪港を利用している車両全車に貸与できるよう準備済み
利用申請車両へ順次貸与中

【イメージ図】

輸入コンテナ搬出の場合



・携帯端末内のGPSを用いて構外の車両位置情報を送信 (渋滞情報や作業状況の確認に活用)

・リアルタイム情報の受信 (コンテナ搬出可否情報や混雑情報等)

・ドライバーの作業状況を関係者へ通知することによる業務の効率化

PSカードをカードリーダーにタッチした後、トレーラーの行先を携帯端末に表示 (紙プラカードを廃止) ⇒ゲート処理時間の短縮

携帯端末内のGPSを用いて車両位置情報をターミナルに送信 (ターミナル荷役作業に活用) ⇒荷受け待ち時間の減少



【試験運用の実施状況】

- ・令和4年1月～令和5年8月に5回の試験運用を実施
- ・第2回試験運用では、ゲート受付時の処理時間60秒削減 (69秒→9秒) を確認
- ・第5回試験運用では、輸出・輸入の両方を対象にした試験運用を実施

【運用開始後の状況】

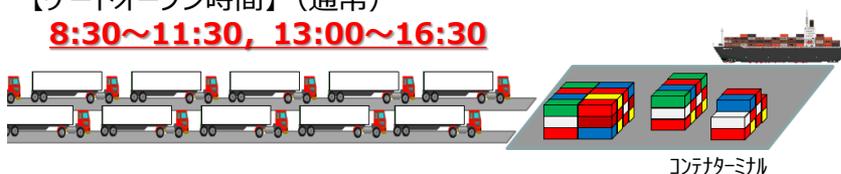
- ・運用開始以降、システム障害等のトラブルは起きておらず、順調に稼働
- ・COMPASの利用率向上に向けては、国土交通省や阪神国際港湾(株)と連携して取組む

④ターミナルゲート時間延長

- ・博覧会協会による交通需要予測等も踏まえ、ターミナルゲート時間延長について、工事期間中及び万博開催期間中において、不測の事態が生じた場合に実施できるよう港湾関係者と調整中。
- ・なお、今年度の秋ごろを目途にゲートオープン効果検証の実施に向けて港湾関係者と調整中。

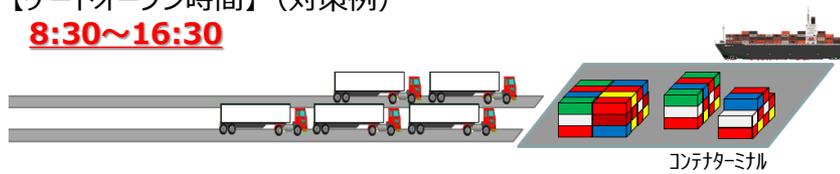
【イメージ図】

【ゲートオープン時間】（通常）
8:30～11:30, 13:00～16:30



・ゲートオープン時間を延長することにより、ゲート前混雑を緩和

【ゲートオープン時間】（対策例）
8:30～16:30



【実施効果】

昼休み処理台数と13時時点待機車両台数

（夢洲コンテナターミナル）

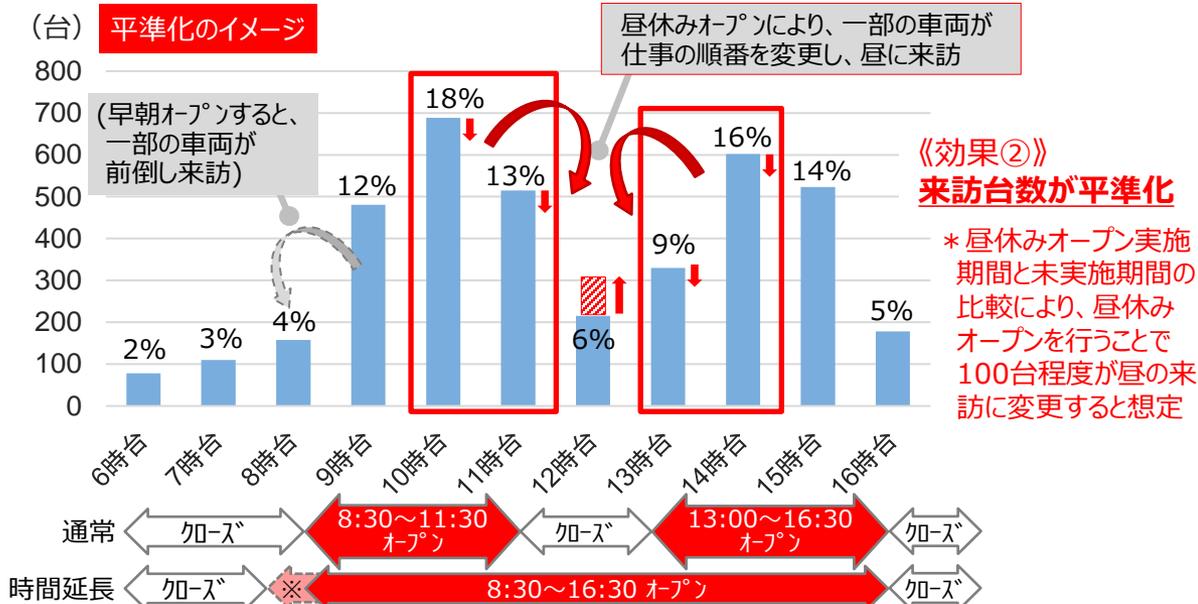


R5.5.8～5.12
 (日平均)

- 昼休みのゲート処理台数
- 13時時点の待機車両台数
 (待機車両は待機場場に引き込み)

時間帯別 コンテナ車両来訪台数

(R2.9.29調査結果(夢洲コンテナターミナル) (混雑期の台数に補正))



※早朝のゲートオープンを行うと8時台(万博開催期間中のピーク時間)の交通量の増加が懸念されることから、早朝の実施については要検討。

⑤ 咲洲へシフト（空コンテナ返却場所一時移転）

・博覧会協会による交通需要予測等も踏まえ、空コンテナ返却場所シフトについて、工事期間中及び万博開催期間中において、不測の事態が生じた場合に実施できるよう港湾関係者と調整中。

【社会実験実施状況】

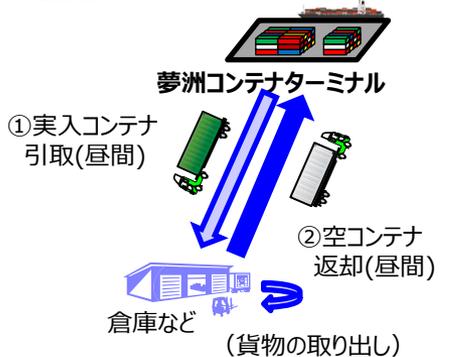
- ・令和3年10月に夜間陸送による社会実験を実施。
- ・令和4年11～12月に海上輸送による社会実験を実施。

実施年度	咲洲側返却場所	実施日数・本数	回送方法
R3	C1西 荷捌き地	12日間 1,070本	夜間陸送
R4	その1 C1 ターミナル	16日間 400本	海上輸送 (一部、陸送)
	その2 C6,7 ターミナル	16日間 432本	海上輸送

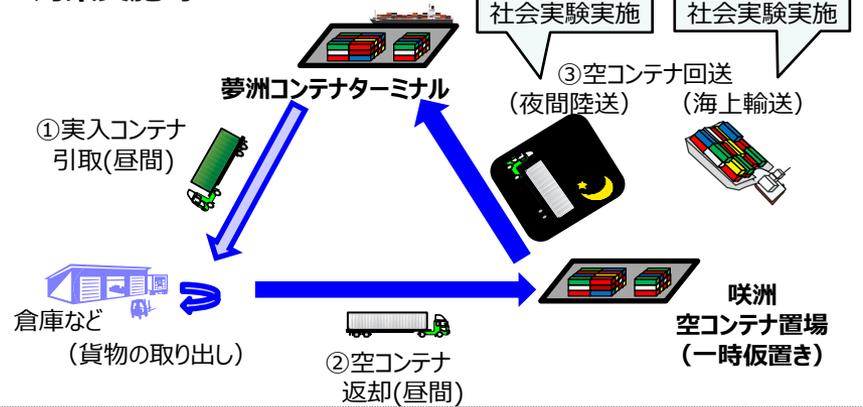


【イメージ図】

《通常》



《対策実施時》



《空コンテナ海上輸送状況》

万博工事期間中及び開催期間中の物流交通対策（案）

今後、増加が見込まれる物流車両と万博関連車両（工事車両含む）の輻輳が懸念されることから、夢洲における交通円滑化に向けた物流交通対策を実施する。

青字：これまでの取り組み
赤字：今後の取り組み

①車両待機場の整備

(470台分追加整備し、670台分確保)

・240台分 済



・230台分(暫定)

令和5年10月 80台分供用

令和6年 3月 20台分供用

令和6年12月 130台分供用予定

③CONPAS(※)の導入

(ゲート処理時間の短縮等)

- ・令和3～4年度に、試験運用を4回実施
- ・令和5年7～8月に輸出・輸入の両方を対象にした試験運用を実施
- ・令和6年3月29日に運用開始

(※) Container Fast Passの略

④ターミナルゲート時間延長

(30分で最大200台分散)



(通常) 平日：8:30～11:30、13:00～16:30
土曜：8:30～11:30

②荷捌き地の拡張（ゲート増設）

(ゲート前待機スペース100台分確保)

(ゲート増設(17→22ゲート)により、1時間当たり120台削減)

- ・荷捌き地の拡張完成
- ・増設ゲートは、令和6年度中に運用開始予定



(写真はイメージ)

⑤咲洲ヘシフト

(空コンテナ返却場所一時移転)

- ・令和4年11～12月に海上運搬による社会実験を実施
- ・令和5年1月にC6,7ガントリークレーン製作設置工事に着手 (R6.9完成予定)

※④ターミナルゲート時間延長、⑤咲洲ヘシフトは、工事期間中及び万博開催期間中において、不測の事態が生じた場合に実施できるよう港湾関係者と調整中

※④ターミナルゲート時間延長は、今年度の秋ごろを目途にゲートオープンの効果検証の実施に向けて港湾関係者と調整中

⑤咲洲ヘシフト

(空コンテナ返却場所一時移転)

- ・令和3年10月に夜間陸送による社会実験を実施
- ・令和4年11～12月に海上運搬による社会実験を実施

①車両待機場の整備 済

(150台分追加整備)



物流交通対策の概略工程（案）

**万博
開催**
R7.4.13~10.13

項目	概要	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
①車両待機場場の整備	夢洲での追加整備		詳細設計	工事	供用開始	設計	工事	工事
	咲洲での追加整備		概略設計	詳細設計	工事	供用開始	設計	工事
②荷捌き地の拡張 (ゲート増設)	C12コンテナターミナル拡張※、ゲート増設 (※ 増設ゲート周辺部分)		検討・協議等	詳細設計	コンテナターミナル拡張工事		増設ゲート工事	システム導入
③CONPASの導入	新・港湾情報システム (CONPAS)		概略・詳細設計、 試験期間中の改修		試験運用等	順次導入	運用開始	
④ターミナルゲート時間延長	昼休み等ゲートオープン時間の延長		社会実験				実施	実施
⑤咲洲ヘシフト	空コンテナ返却場所一時移転		検討・協議等					
			検討・協議等	詳細設計	C6,7ガントリークレーン整備			実施

※④ターミナルゲート時間延長、⑤咲洲ヘシフトは、工事期間中及び万博開催期間中において、不測の事態が生じた場合に実施できるよう調整中